

21年度は4社が参画

「くらしSDGs」じぶんごとからはじめよう」プロジェクトの概要からお話をお伺いしたいと思います。2020年冬に、ある企業からの提案がきっかけだとお聞きしました。

あるメーカーから、業態の壁を超えいろいろな業種の方と一緒にSDGsのプロジェクトができないかという相談をいただいたのが、きっかけです。1社でできることは限られており、「いろんな業界から参加企業を感づてもらえるのなら」という声は根強くありました。当時は、SDGsといっても何か、CSR（企業の社会的責任）と区別がついていないような企業も多かったように思います。新聞社としては、本業の強みを生かして、しっかりと社会に貢献しながら、しかもビジネス化していけるようなサステナビリティな活動を取り上げたいと、広くさまざまな企業に呼び掛けていきました。

——プロジェクトに参加されている企業はどのくらいあるのでしょうか？

21年度は、美香総合リース、イケア・ジャパン、バンダイスピリッツ、日本郵便の計4社に参画いただきました。

——くらしSDGsの具体的な取り組みについて教えてください。

企業と学校結び「じぶんごと」に新聞社のリソース使い出前授業

読売新聞東京本社

広告局コンテンツ企画部主任



日本最大の全国紙である読売新聞社。140年以上の歴史の中で培ってきた「伝える力」は報道にとどまらず、広告や事業を通じて、企業のSDGs推進を後押ししている。同社の「くらしにSDGs～じぶんごとからはじめよう～」プロジェクトは、企業と教育現場をSDGs活動というテーマで結ぶ。広告局コンテンツ企画部で同プロジェクトを担当する龍至江梨子さんに狙いや意気込みなどを聞いた。



りゅうし えりこ
龍至 江梨子

2003年、読売新聞東京本社に入社。主に法人向け広告営業、管理部門（人事・総務）を経験。2度の産・育休、転勤等の経験をきっかけにダイバーシティ&インクルージョン実現に向けた企業の取り組みに興味を持つ。読売新聞東京本社企画営業部でThe Valuable 500に加盟時より企画を担当。その後教育現場におけるSDGs企画や文化イベント・広告賞等を担当している。2020年よりマリークレーン事業室を兼務。

万人に上りました。そのチャレンジ校に「読売SDGs新聞 くらしにSDGs特別号」など教材を配布し、出前授業や教材の活用を通して、子どもたちと一緒にSDGsをテーマに学びを深めていくという取り組みです。企業のSDGsの活動を参考に、家庭でのアクションにつなげていきたいという思いがありました。

イケア・ジャパンとの取り組みでは、「ジェンダー平等を考える」という「SDGs探究ブック」と「読売SDGs新聞」を発行しました。イケア・ジャパンは「ジェンダー平等」を掲げ、女性管理職比率50%以上を達成されています。平等こそが人権の中心であるという考えが社内浸透しています。さらにホームファニッシングカンパニーとして、より快適な毎日をより多くの方々にお届けするというミッションを掲げています。今、ジェンダー平等にどのような取り組みをしているのか、イケア・ジャパンの事例は教育現場でも参考になるものでした。

——プロジェクトに参画されるパートナー企業の取り組みは、「読売KODO MO新聞」と「読売中高生新聞」に「探究ブック」のダイジェスト版が掲載され、両紙の読者にも紹介されました。

イケア・ジャパンの紹介では、ジェンダー平等だけでなく、家具の再利用に

まず、21年度に読売新聞教育ネットワーク事務局が全国のSDGs教育に積極的な学校を「SDGsチャレンジ校」として登録してもらった。同年度の登録数は小中高139校で、児童・生徒数にすると約4